No.114

泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツ社
0724(83)4653

〝第四十一回 阪南郡市駅伝競走大会 参加について〟

会長 逢健三

選手の皆さん、御苦労さん、お疲れ様。この大会は昨年は雨で中止であったように、このようなこと過去に何回あったが、知らないが、今回で四十一回とのこと、これは大変なことです。何故この様に続くのでしょう。「これは面白いから」確かにそうでしょうが、駅伝とは、一人の優れた選手にだけ頼るのでなく、それぞれの選手の皆様がもてる自分の能力を十分活かして、その総合力がチームの成績になる。チームプレーが大切になる。それが走る人、観戦する人の魅力になる、で第四十一回まで続いたのだと思います。

さて、走ろう会より二チーム参加。これはなかなか出来ないことです。駅伝とは選手六名揃えるのに、大学、実業団でも、大変むずかしい。いわんや、走ろう会のように、職場年令、トレーニング場所、方法が異なりますのに、二チームも参加して下さいまして感謝いたします。これには選手の皆様の責任感、自分が行かなくてはチームが、つぶれる。雨の中駆けつけて下さいまして、大変うれしく思います。チーム編成には走ろう会事務局の石橋さんの御骨折大だと思います。一人々に「選手に出てや」と余程平素の人間関係、コミニケーションがないと、言いにくいものです。また選手の皆様は責任感、心よくお引受け下さいまして。だからこそ、二チームも出来たものだと思います。一時は「都合あって参加出来ない」「誰々さんも誰々さんも」「じゃ、仕方がない、補欠に補欠がいるなあ、我々も走ろう」と走る準備、用意をする、この様に気づかい致しましたが、可成りの成績で大会を終えました。この大会の目的は何か。前にも申しましたように、職域では阪南郡市の職域での親善、親睦と体育振興、高等学校、中学校も同じ様な目的で発生されたと思いますが、それにしても職域では非常にバラツキがある。株式部上場企業と町工場、市役所、自衛隊警察署、青年団等々。異業種多彩である。後日、参加職域の名簿、記録、御報告さして頂きましたが、選手皆様の参加、御苦労様の御礼をのべさして頂きまして、駅伝参加の記事といたします。

雨の中を千五百人☆☆☆伝統の駅伝で熱戦

第四十一回阪南郡市駅伝競走大会（阪南郡市体連・阪南郡市教委主催、朝日新聞社後援）が十日、堺市の浜寺公園周回コースで開かれた。百一チーム、約千五百人が参加、雨が降りしきる中、練習の成果を競った＝写真。上位の成績は次の通り。【男子】中学①信太②小津③佐野▽高校①阜和田②大体大浪商③和泉【女子】中学①佐野②小津③石尾▽高校①大体大浪商②泉鳥取③高石【職域】①信太山自衛隊A②我青年団③信太山自衛隊B

また、来年もよろしく御願いいたします。

『泉州千亀利マラソンに参加して』

午前七時、新家公民館前「寒いなあ」「こんな日に走るのか、かなわんなあ」みんな口々に言っている。でも出発。会場更衣室にて、無料のコーヒーを頂く。早速走る用意の着替を行うが、石橋さん「何か仕事とか誰かの結婚式に出席するとか、参加取止の口実ないかなあ、寒むいと言って棄権するのは格好が悪い」「そうだ、そう思うか、ワシもそう思う」といいながら着替を行う。開会式に出る、選手が少ない。来賓ばかりが多い。それもその筈だ。選手はもう皆、短パン、ランシャツだ。来賓は服を着ている。仕方がない。それならばと目立たがりやの私が、ヤケを着て開会式に出る。そこに来賓として見えられておられた。泉南市長さん、市野陸連役員さんに来賓として御越し下さったことに敬意と感謝をのべる。そして「私達走ろう会より六名参加しております。頑張ります」と決意をのべる」様な挨拶する。さて、スタートする。六キロ地点、三十一分、またしても駄目か。せめて二十九分で走りたかった。仕方がないさ。これからだよと自分に言い聞かせ走る。牧野先生と会う。とんでもないところであったものだ。私は片和田城にさしかかったところなのに

その2

先生はもう折り返してくる。このコースは行ったり来たり折り返すコースが多いので、その後も私の前を走る牧野先生、岡田さんに何度も会う。この分だと、どう位離されるかと思う。私は今まで絶対後を見ないで走るが、ひょいと後を見ると山瀬さんが、ぴったり私の後につく。つかれると私が困るのに。私はペースメカーになる程強くないのに。でも楽しく走ろうと、山瀬さんに「あの人をペースメーカーにしよう。女子のゼッケン二番だ。その人を追抜くと、今度はゼッケン七番だ」と淡々と走る。十キロ、五十分。二十キロ一時間四十五分。これはまずい。もっと早く走らなくてはと思うが、どうにもならない。私が例のトイレに行く(今回は小)山瀬さんに離される。一旦、リズムが狂うと、もう駄目だ。まあ良い。一〇〇米位だと思うが、そのうちだんだん離される。三十キロ、二時間四十分、三十五キロ、三時間十分だ。愈々駄目かと思ってくる。そのとき「会長さん」と声あり。宮下さんだ。足にけいれん起こしたらしく、へばっている。一瞬私は「どうしたの」と立止ろうと思うが、ここで私は止まれば私もつぶれる。悪いなあと思うが、後に心は残れども残してはならぬこの体。気にはなりながら、そのまま走り続ける。三十五キロ地点より私は一人、また一人と追い抜かれる。これは私には苦痛であり、屈辱だ。私は抜くのはへばっている人か、歩いている人だ。こんなの抜いても仕方がない。私の根性は三十五キロ地点からであったのに、トレーニング不足か、タバコが悪いのかと反省する。

細井さんの言う「近くのマランでであり、何処で誰が見ているかわからないので、心して走るようにとの忠告であったが、寒さ、冷たさ、向い風に耐えるのに精一杯で、それどころではなかった。でも沿道の応援の方々は「頑張ってく」と御声援下さいましたが、やはり、細井さんの言う通り、私に「あれ違さんではないか、遠え頑張って」と自転車より、また給水所にて沿道からも三人の方は私を名指して声を大にして声援下さる。その方は私は今もって失礼ながらどなたか分らない。感謝しております。ゴールの直線コースに入った。その時「オッちゃん頑張れ」と声あり。「有難とうよをし、それならばオッちゃんの根性を見せる」と猛烈にスパートする。二人を追い抜く。まるで子供じみているが、自分では面白かった。牧野先生、岡田さん、山瀬さん、早くゴールされており、タイムは立派々。私は四時間を切った。まあこんなものかと思うが、もっと頑張らなくてはと、反省することしきりである。

その後どうしたのかと思っておりました。岡田さん。あんなに三十八キロ地点の関門を気にしておりました石橋さん、どうかなあと気になるが、無事、好タイムにて完走され、良かった、良かった。この大会はあの寒さ、あの向い風に耐えた。非常に勉強になったと思います。難事を克服した喜びは一入です。寒い中、沿道の応援の方、御世話下さいました大会役員の方、家に帰ると「名簿を見た、どうでした」と「無事完走した」と伝えると「おめでとう」と祝福の電話を受く。その他の方々に感謝しながらペンを置きます。

合掌
遠 健三

アベベの走った道

泉州マラソンで

ローマ、東京五輪を連覇したはだしのマラソン王者、アベベ(エチオピア)が大阪でも走ったことを記憶だろうか。堺市の浜寺公園―岸和田城を回る昭和三十六年の第十六回毎日マラソンだった。

ローマ五輪の翌年。岸和田城周辺をはだしでさっそうと駆走し始めたアベベは、たちまち身動きできないほどの人垣に囲まれた。城周辺は小石の多い未舗装道路、「けがでもしたら」とのコーチの指示で、本番は靴を履いての優勝だったが、沿道のファンは熱狂した。

その雄姿を覚えている市民たちが実行委員会をつくり、二月十七日、岸和田―泉大津―貝塚で泉州マラソンを開催する。毎日マラソンが翌年から琵琶湖岸に移り「大阪名物が一つ消えた」と惜しまれた後、男性の参加できるフルマラソンは大阪にはなく、三十年ぶりの復活である。

堺市から岬町までの泉州すべての市町教委や体協が協力、読売新聞大阪本社と読売テレビ、報知新聞も応援する。

参加する千人の市民ランナーの中には夫婦が十三組、親子も二組いる。マラソン人口のすそ野の広がりはすさまじい。この マラソンから、アベベのような名ランナーが生まれてくれればと、主催者、もちろん、岸和田城周辺はちゃんと舗装され、はだしでも大丈夫だ。(松)

社会部 ☎(06)311―3111

空港島望み 健脚を競う

泉州マラソン

建設が進む関西新空港対岸のゴールをフロントを駆け抜ける「泉州・千亀利(ちきり)マラソン」(読売新聞大阪本社など後援)は十七日、岸和田競輪場駐車場を発着点とする42・195キロで行われ、九百七十九人(うち女性五十二人)の市民ランナーが健脚を競った。(30面に関連記事)

午前十時のスタート時は気温4・1度、北西の風7・8メートル。色とりどりのウエアに身を包んだ参加者は夫婦や親子らが自立ち、途中、大会名にもなった岸和田城(千亀利城)や空港島を見ながらのランニング。男子は吹田市原町の大阪経済大三年土井秀之さん(三)が2時間20分1秒で、女子は大阪市阿倍野区北畠の主婦信正換子(あいこ)さん(三)が2時間58分12秒で優勝した。

泉州路でのマラソンは、ベベが優勝した昭和三十六年の毎日マラソン以来。市民らが「泉州一体のイベントを」と実行委員会をつくり、大阪では初めての男女フルマラソンとして三十年ぶりに復活させた。

▲ゴールに向かう参加者

夫婦で完走 市民マラソン

家庭円満より／次は「大阪女子」へ

仲良くゴールインした中西明さん（右）、香世子さん夫婦

〔特筆すべきこと〕

この大会は細かく関門があり、また当日は寒さ、向い風が強かったが、よく耐え見事完走されました。石橋さん宮下さんではなかろうかと思います。こんな事書くのお二人には失礼かと思われますが特筆さして頂きます。

石橋さん

二月二日に所用あり、石橋さんにお会いしました。その時、石橋さんが私に「あんたは六キロ地点さえ通過すれば、そのまま楽らくとゆける。私はミナ八キロ地点はむずかしいと思う」「何もそんなにミナ八キロ地点まで行かなくても良い。六キロかナキロ地点で早くリタイヤした方が良い。その方が上だ」と言うと、石橋さん「あれはインチキだ詐欺だ、当初の申し込み規定と違う」といきまいておりましたが、それなりに大鳴山に二人で走りに行くようにトレーニングされたのでしょう。石橋さんには、お仕事の都合上、トレーニングの時間がとてもではないがむずかしい。それなりに良く頑張ったと思います。これは、あまり好ましくないことですが、トレーニングは一夜積け、朝積け位では、なかろうかと思います。それなりに見事完走、何処か忘の強いところがあるのでしょう。

敬意と拍手を贈ります。今後御仕事もさることながら、トレーニングの時間を見出し、余り無理をしないようにして頑張ってほしいと思います。

宮下さん

フルマラソン初参加、大部（だぶん）思案されたことでしょう。それもその筈皆皆、フルマラソン参加経験者、しかして今回は細かく関門があり、まだおまけに制限時間四時間ミナ分以内とは篠山よりまびきつい。思いきっての参加、立派だと思います。さて、当日はフルマラソン経験者でもまいる。向い風、良く耐え見事無事完走、拍手喝采を贈ります。

継続は力なり、今後も余り無理をならないようにして頑張って下さい。

阪南走ろう会々長　遠健三

お知らせ

一、例会日　二月二十四日(日)午前九時

一、場所　阪南市体育館

一、コース　旺の谷より笠山まで

「注」駅伝とフルマラソンに参加、お疲れのことですので、今回のコースは体調を整える意味でリックスムードで走りたいと思います。

一、篠山マラソン参加について

また参加通知が来ておりませんが間もなく申し込まれた方には通知が届くと思います。今回は大阪よりマラソンバス利用ですが、大阪発午前七時頃と思われますので、信達、新家の方、JR天王寺駅行、一番電車、新家駅ならば午前五時十八分に御乗車下さい。

朝食は家で食べると早過ぎますので朝食はバスの中で食べるように弁当御持参下さい。

※お願い

阪南駅伝の原稿を未提出の方は早く出して下さい。

一言でも結構です。

既提出者（遠、岡田、牧野）